

試料・情報分譲申請用研究計画書(概要)

| | | | | | |
|------------------------------|---|--------|--------------------------|--------------------------|----|
| 審査委員会 受付番号 | 2017-1019 | 利用するもの | 情報:ゲノム情報、年齢、性別、既往歴等の属性情報 | | |
| 主たる研究機関 | 東北メディカル・メガバンク機構 東北大学医学系研究科 | | 分担 研究機関 | | |
| 研究題目 | 緑内障データベースを基盤としたバイオマーカー・創薬シーズの探索的研究 | | 研究期間 | 平成30年4月1日～ 平成31年3月31日 | |
| 実施責任者 | 長崎 正朗 | 所属 | 東北メディカル・メガバンク機構 | 職位 | 教授 |
| 研究目的と意義 | 緑内障患者検体とメガバンクで収集されているジャポニカアレイなどを用いてタイピングされた結果について関連解析などを行い、候補領域の同定を行う。 | | | | |
| 研究計画概要 | 平成26年度にToMMo全ゲノムリファレンスパネル(1KJPN)に基づきToMMoにおいて設計がおこなわれたジャポニカアレイが東北大学のCOI事業の協力のもと社会実装が行われた。現在、ジャポニカアレイを用い複数の拠点でジェノタイピングの評価および検証が進められている。東北大学眼科では、眼科疾患(緑内障など)の検体の収集を進めている。当共同研究では、ジャポニカアレイを用いてジェノタイピングされた結果について1KJPNを用いてインピュテーションを行い、眼科疾患と遺伝型との関係を明らかにする。また、必要に応じてToMMoリファレンスパネルをコントロールとした解析を行う。 | | | | |
| 期待される成果 | バイオバンクとしてToMMoからの情報分譲の1つの成果となる。また、解析事業としてToMMoが構築しているリファレンスパネルおよびToMMoの成果の1つであるジャポニカアレイの有用性、また、ToMMoで特性がある属性情報が利用された場合、ToMMoで収集している前向きコホートで収集されている属性の有用性が検証できる。 | | | | |
| これまでの倫理 審査等の経過お よび主な議論 | 2016年3月17日 東北大学医学系研究科倫理委員会承認(2015-1-828) | | | | |
| 倫理面、セキュリ ティー面への配慮 | 当機構のリファレンスパネルをコントロールとして利用した関連解析においては、当機構で定めるセキュリティポリシーに従う。 | | | | |
| その他特記事項 | | | | | |
| * 公開日 | 平成30年5月31日 | | | | |